

行政視察等報告書

平成29年 3月31日

境港市議会
議長 岡空 研二 様

会派名 きょうどう
代表者 米村 一三



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	平成29年3月28日（火）～平成29年3月29日（水）
2 視察等先 及び内容	平成29年3月28日（火） 横浜市神奈川区東神奈川1丁目1-29 東部療育ビル3階 神奈川区地域子育て支援拠点「かなーちえ」にて ○視察目的 「かなーちえ」の概要と取り組みについて 平成29年3月29日（水） 横浜市青葉区桜台25-1 桜井台ビレジ1B-103 明日の株式会社にて ○視察目的 地域女性雇用促進事業について
3 視察等議員	米村 一三、平松 謙治、景山 憲、岡空 研二、柗 康弘、 森岡 俊夫、濱田 佳尚
4 総経費	合計（7名）466,830円 （一人当たり66,690円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所見等	別紙のとおり

行政視察の内容

報告者 米村 一三

平成 29 年 3 月 28 日（火）午後 1 時 30 分～

視察目的 地域子育て支援拠点「かなーちえ」の概要と取り組みについて

視察先 神奈川県横浜市神奈川区東神奈川1-1-29 東部療育ビル 3階
神奈川区地域子育て支援拠点「かなーちえ」にて

説明者 塚原 泉 氏 （かなーちえ施設長）
豊倉 麗子 氏 （横浜市こども青少年局 子育て支援担当係長）

【内 容】

最初の計画では、他地区の地域子育て支援拠点を視察先に選定していたが、横浜市より当施設の紹介があり、「かなーちえ」を視察先に変更した経緯があるが、視察先として推薦いただいたのもうなずけるほどの事業内容であったと感じている。

神奈川区地域子育て支援拠点「かなーちえ」はキャッチフレーズを《つながる！ちえのわ♪人のわ♪》とされており、「かなーちえ」のネーミングはこれに由来するとのことであった。

「かなーちえ」は横浜市より委託を受けた、この地域の民間団体が運営している。総勢 18 人のスタッフにより、火曜日から土曜日の 5 日間開館されている。（日・月・祝日が休館で月曜日は連携している他の団体とうとの会議などに利用されている。）

利用料は無料で、利用できるのは就学前の子どもと保護者である。施設の規模はおおよそ 300 平方メートルであり、横浜市の 18 区全てにこのような施設が 1 か所設けられており、モデル地区には別に 1 ないしは 2 施設がある。

「かなーちえ」には以下の 7 つの機能がある。

1. 親子のひろば

どの子どもどの人も、その人らしくゆったり自由に過ごすことができる、遊んだり交流できる場の提供。

2. 相談

ちょっとしたことも気軽に相談ができ、専門相談員の相談日も準備している。

3. 譲歩提供

民間や市の様々な情報を提供すると共に、通信の発行やHPでの情報提供を行う。

4. 横浜子育てサポートシステム

子どもを預けたり、預かったりすることで、地域ぐるみで子育ての支援を行う。会員制の有償の支え合い活動。

5. ネットワークづくり

神奈川区の輪を広げ、人・グループ・施設などとのネットワークをつくり、関係を紡ぐ。

6. 人材の育成

「このまちに暮らしてよかった」と思える子育て・子育てを育て、温かい地域風土づくりを行う。ともに学び、語り合う場を作る。

7. 利用者支援事業

「横浜子育てパートナー」が相談者の気持ちに寄り添い、必要な情報を調べたり、適切な支援機関を紹介・仲介する個別支援と地域連携を床める。

「かなーちえ」の活動が、地域との深い連携を持ちながら事業活動が行われる背景には、神奈川区で2001年に立ち上げられた「すくすくかめっ子」と称する子ども支援事業によるところが大きい。

「すくすくかめっ子」活動とは、地域の皆さんが「まちで、みんなで子育て・子育てを見守ろう。」との思いで、施設・野外・学校・町内会などあらゆる場面をとらえて「親子のたまり場」づくりを進め、活動の輪を広げている。ボランティアで子育てを支援してもらった人が次には自分が支援する側に回るような仕組みづくりを実践している。

「かなーちえ」の利用者は、1日60～70組の方が利用している。さらにこの施設では、市から市はる割れる委託費で実情に合わせて要員を増やすなど、独自の裁量で運営されているようだ。

【 所 感 】

地方である当市でも困難な、行政と地域との連携が、大都会の横浜市で実践されていることが驚きであった。私たちに説明役をつとめられた施設長さんにも、この施設の運営に臨む熱意があふれていると感じ、大いに参考となった。

平成 29 年 3 月 29 日（水）午前 10 時～

視察目的 地域女性雇用促進事業について

視察先 神奈川県横浜市青葉区桜台 「明日の株式会社」

説明者 村尾 周三江 氏（明日の株式会社 代表）
村尾 朋子 氏（明日の株式会社 ディレクター）

【明日の株式会社 概要】

この会社の代表を務める村尾氏は鳥取県・智頭町出身とのことで、この度の視察が実現した。会社概要を記すと 2008 年に設立され、WEB, SHOP, EVENT 等の制作・運営・企画・サポート・ブランディングを 20 人のスタッフで経営されている。

勤務形態は在宅での勤務、短時間勤務、スカイプを使った地方での勤務など多様性にあふれた働き方でもって志事（しごと）に取り組んでおられる。

創業時よりご縁のあった会計事務所や横浜企業経営支援財団などとも密に連携されるとともに、地元の横浜市青葉区桜台をはじめとして、藤が丘、あざみ野の商店街の方々と共に地域おこしを精力的に実行しておられる。

この会社は、五年連続で仕事と生活との調和の実現に向けた社会基盤づくりに寄与したとして「よこはまグッドバランス賞」を受賞する榮譽に輝いている。

【地域女性を雇用するコールセンターの起業について】

本年 1 月以前から取引のあった、中古車販売会社からコールセンターの立ち上げについて相談があったのが起業のスタートであった。同業の大手企業とは異なったアプローチができるコールセンターを東京都内で設立しようと計画されたが、スタッフの確保が難しく頓挫しようとしていたところであった。

村尾代表は、かねてより青葉区に住み都内まで通勤する横浜都民に地元で、子育てしながら勤務が続けられる仕事を思い描いておられ、この事業を自分の住む青葉区桜台で立ち上げ、都内並みの賃金（地元では 9 百円台の時給が、都内並みの 1, 400 円を支払う）を確保しようと企業を決心し、スタッフの確保を開始された。

日頃より、地域おこしにかかわっている人脈を生かし、PTA 仲間、ママさんグループ、郵便屋さん、地元商店会の皆さんに働きかけた。コールセンターのスタッフは声の質が 30 から 40 代の女性が一番適しているといわれる、その年代のスタッフを 1 月余りで確保したとのことです。

場所も当初は自社内で考えていたが、地元商店街にある各店から協力いただき、その店舗内の一部を改装し機材を設置した。た依頼した会社もその行動力に驚嘆し、全面的に任せるとのことでスタートした。

子育て中の女性が働きやすいよう、3時間を勤務の単位として、午前10時から午後7時までの営業を行っている。多くの希望時間を可能にするには、スタッフを多めに確保したり、働き易いように自分たちの勤務シフトを組んでいる。もちろん子供連れの勤務もOKで手の空いたスタッフが子どもの面倒を見たりしているということです。

スタッフの連帯感を深めるため、全員の紹介文が顔写真入りセンター内の壁面に貼ってありました。また、勤務のスキルアップにつなげるため、その月の自分の目標を設定し、スタッフや上司の評価をもらうこと、さらにはスタッフ全員が仕事中に気づいたことや体験したことを日記形式でつづるノートを作成するなど、きめ細かい心遣いが見受けられた。

【 所 感 】

村尾代表は、本年2月に視察訪問した「カマコンバレー」のメンバーであり、その出会いがこの視察へと導いてくれた。同じ鳥取県出身であることから、この度の機会も丁寧に対応いただきました。視察終了後の昼食時に、地元でまちおこしに仲間3人にもお引き合わせいただき、商店街活性化の取り組みの内容についてもお話しでき、充実した食事会になった。

自分たちの会社経営を立派に遂行しておられる背景には、出会いをご縁と感じて様々な情報をお互いに共有しあい、共に活動する喜びを分かち合っていればこそではないかと推測しました。自分たちの郷土を横浜の地につなげようと、多大の努力もされているのに感服いたしました。

以上